

全般季節予報支援資料

1か月予報

2026年8月6日

予報期間：8月8日～9月7日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本では、向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる所もあるでしょう。

西日本日本海側では、今後2週間程度は少雨の状態が続く見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東日本日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	20:30:50	50:30:20 40:30:30	20:40:40 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:40:50	50:30:20 30:40:30	20:30:50 40:30:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 30:40:30	30:40:30 40:30:30	
沖縄・奄美		20:50:30	20:30:50	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	30:50:20	20:30:50	10:30:60
東日本	40:40:20	10:40:50	10:30:60
西日本	10:40:50	10:40:50	10:30:60
沖縄・奄美	30:50:20	30:50:20	20:40:40

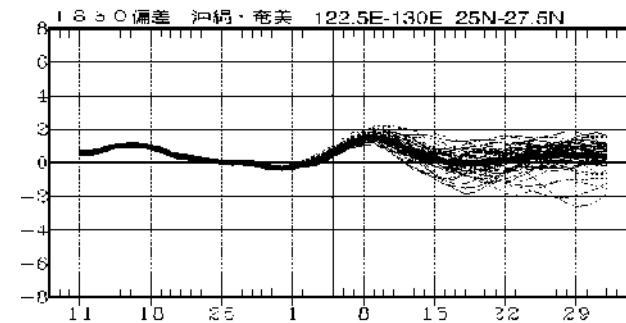
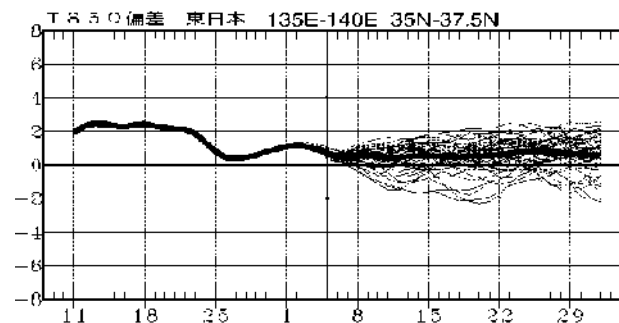
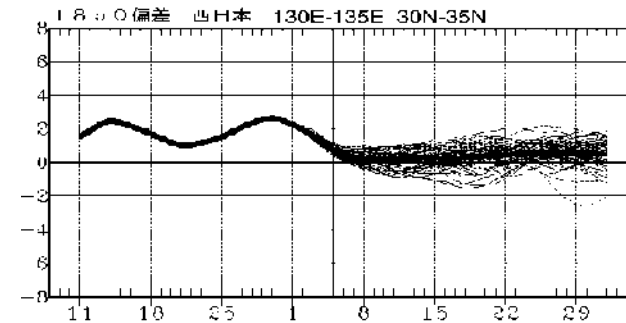
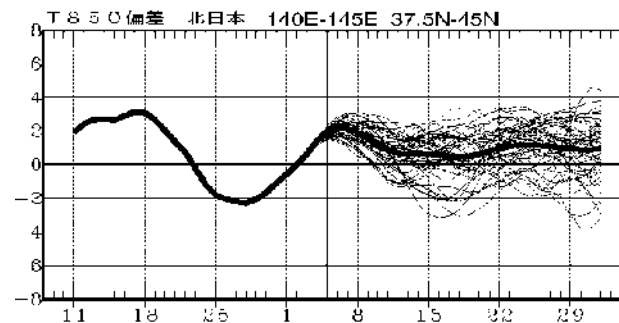
全般1か月予報のポイント

- ・北日本では暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・東・西日本では7月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。今後1か月程度も、暖かい空気に覆われやすいため気温の高い状態が続き、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる所もあるでしょう。
- ・北・東日本日本海側では高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は、北日本日本海側では平年並か多く、東日本日本海側では多いでしょう。
- ・西日本日本海側では、7月から高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いています。今後2週間程度も高気圧に覆われやすいため少雨の状態が続く見込みで、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。
- ・沖縄・奄美では、期間のはじめに台風第13号の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(8/8～8/14)	2週目(8/15～8/21)	3～4週目(8/22～9/4)
想定される天候(気温)	北日本と沖縄・奄美は平年並、東日本は低温傾向、西日本は高温でかなり高くなる所もある。	北・東・西日本で高温で、東・西日本ではかなり高くなる所もある。沖縄・奄美は平年並。	北・東・西日本で高温。沖縄・奄美は高温傾向。
根拠	東日本は冷涼な空気に覆われやすい。 西日本は暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)	北・東・西日本は暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)	北・東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)

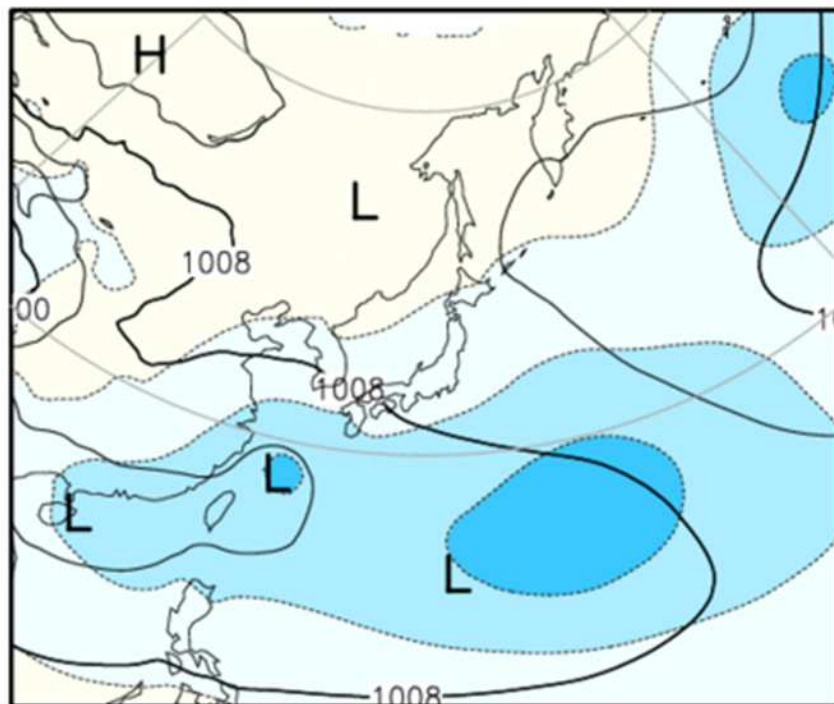
850hPa気温 偏差時系列



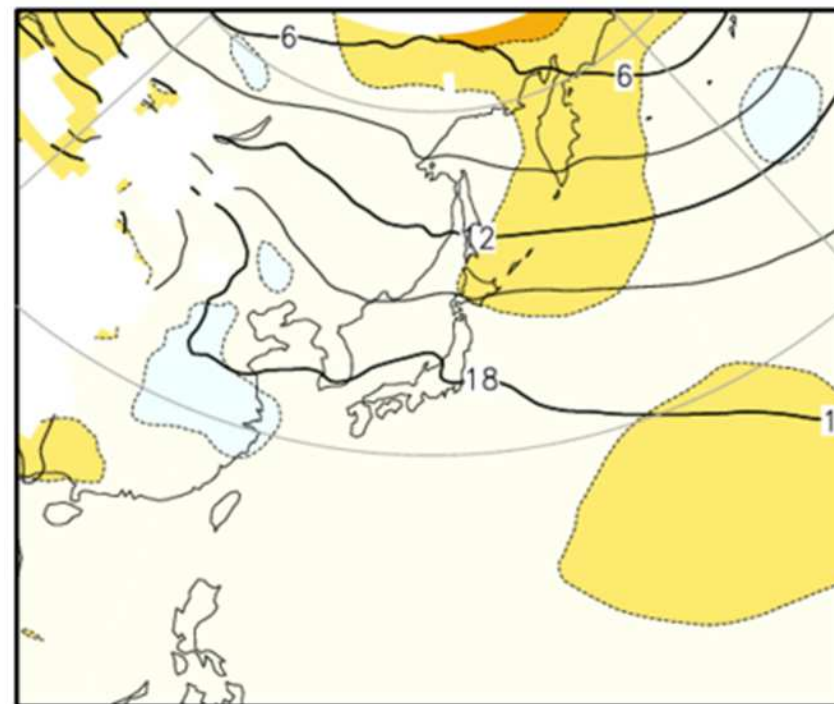
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(8/8～8/14)	2週目(8/15～8/21)	3～4週目(8/22～9/4)
想定される 天候 (天気)	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 西日本と沖縄・奄美では、台風第13号の影響を受けやすいため平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東日本日本海側と西日本では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	高気圧に覆われやすいため、北日本日本海側は少雨傾向、東日本日本海側は少雨傾向多照傾向。台風第13号や湿った空気の影響を受けやすいため西日本日本海側は寡照傾向。西日本太平洋側は多雨傾向寡照、沖縄・奄美は多雨寡照傾向。(P12,P13参照)	高気圧に覆われやすいため、北・東日本日本海側、西日本太平洋側では少雨傾向多照傾向、西日本日本海側では少雨多照傾向。(P12,P13参照)	おおむね平年と同様の天候。(P12,P13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

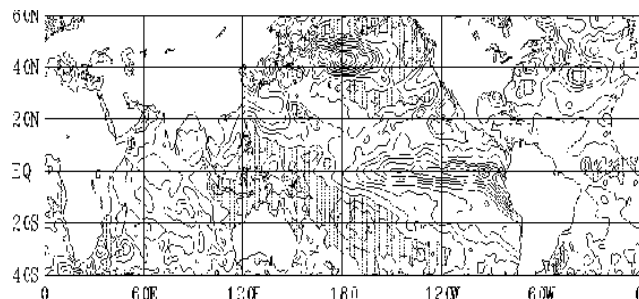


1か月平均の海面気圧(左図)は、東シナ海から日本の南で平年より低い一方、華北付近から千島近海にかけて高圧部となっていて、日本海側を中心に高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。期間のはじめは沖縄・奄美を中心に台風第13号の影響を受けやすいでしょう。

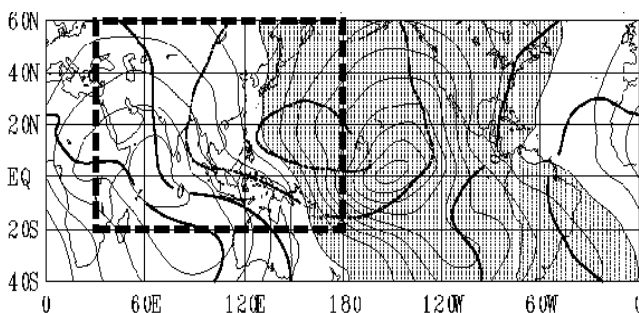
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は北日本を中心に平年より高く、北・東・西日本は暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

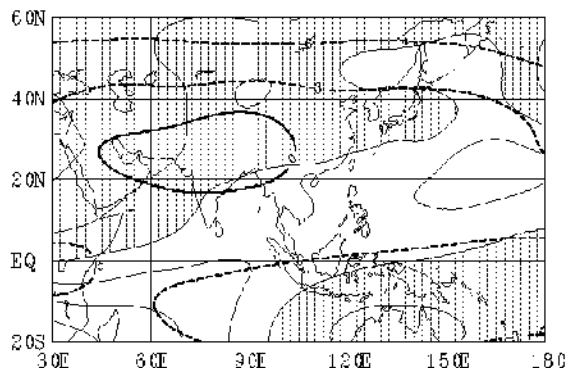
SST偏差



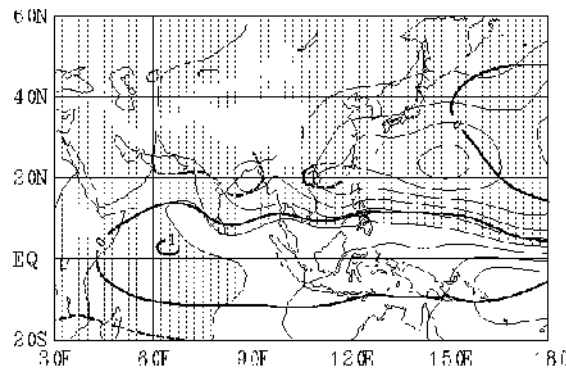
200hPa速度ポテンシャル



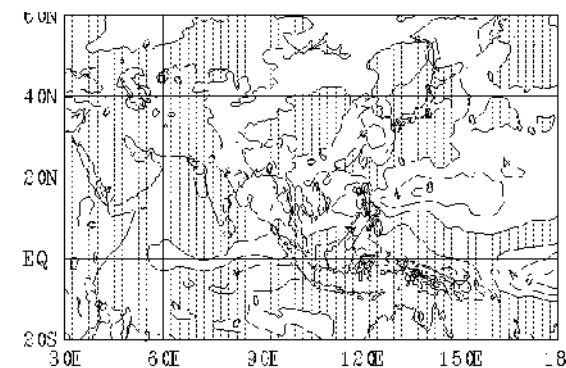
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部で正偏差、西部及びフィリピンの東で負偏差。

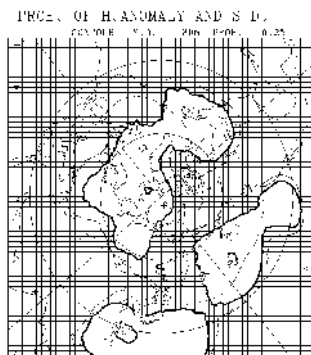
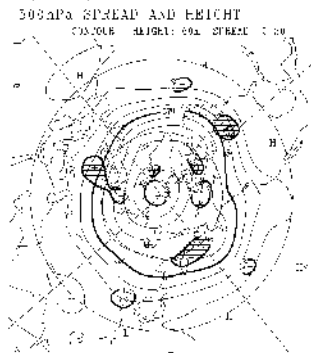
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、日本の南を中心に低気圧性循環偏差。

降水量は、日付変更線の西からフィリピンの東、東シナ海を中心に多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場



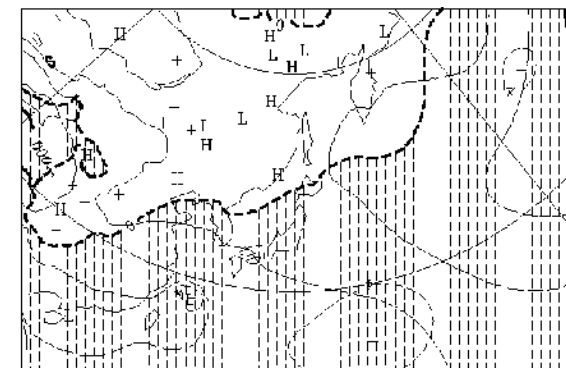
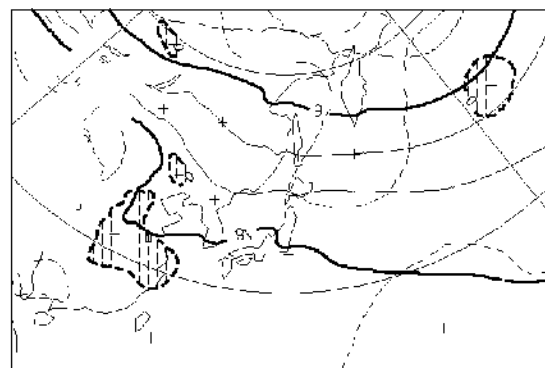
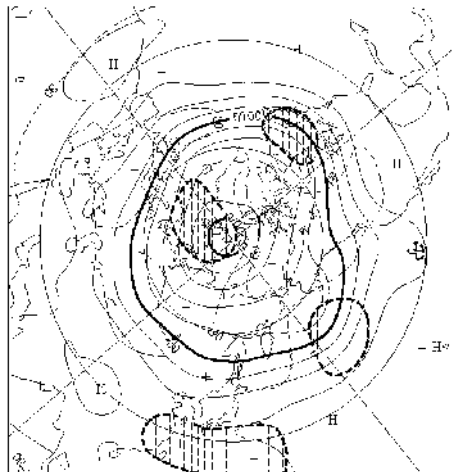
500hPa高度

500hPa高度は、ユーラシア大陸からカムチャツカ半島付近にかけて広く帯状に正偏差となり、亜熱帯ジェット気流は期間の前半を中心に平年より北よりを流れる。一方、日本の南は負偏差となっている。カムチャツカ半島付近ではスプレッドが大きい。

850hPa気温は、日本付近は北日本を中心に正偏差。海面気圧は、東シナ海から日本の南で平年より低い一方、華北付近から千島近海にかけて高圧部となっていて、日本海側を中心に高気圧に覆われやすい時期がある。期間のはじめは沖縄・奄美を中心に台風第13号の影響を受けやすい。

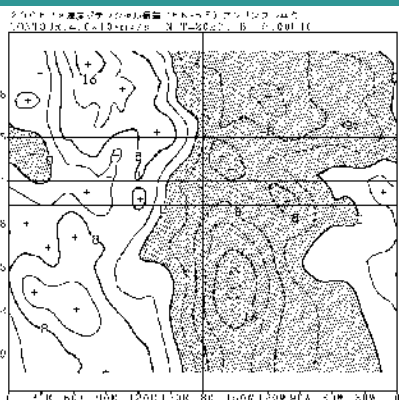
850hPa気温

海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差。一方、インド洋西部から中部を中心に上層収束偏差。1週目はフィリピンの東付近でも上層発散偏差。

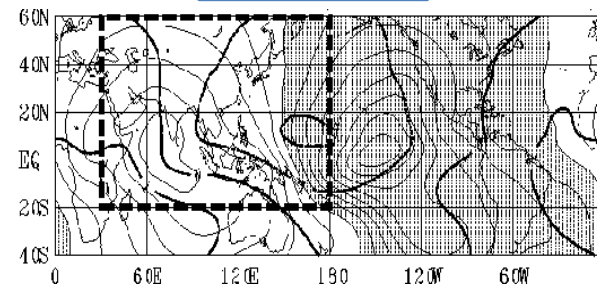
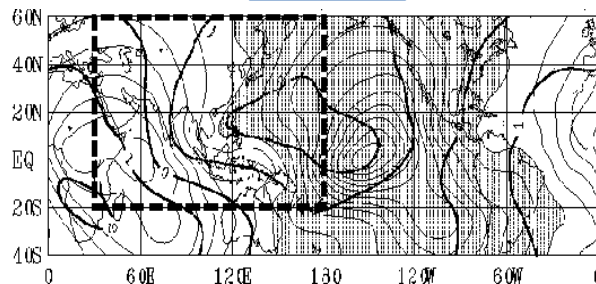
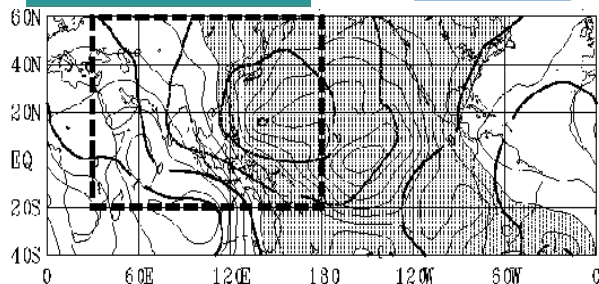
降水量は、期間を通じて日付変更線の西を中心に多雨偏差。1週目はフィリピンの東と東シナ海、2週目はフィリピン付近でも多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

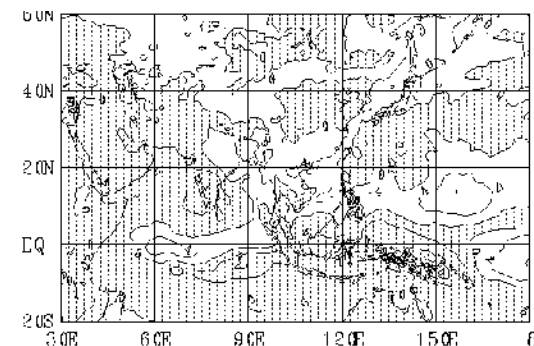
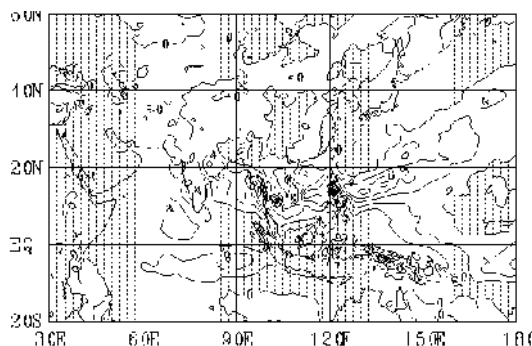
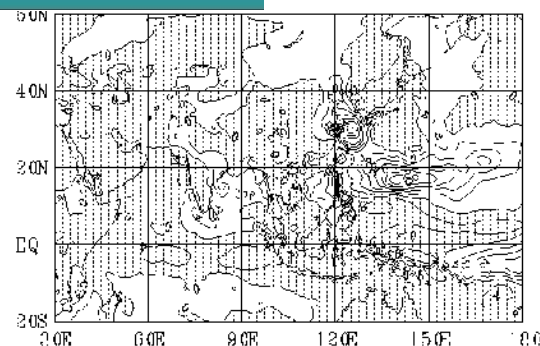
1週目

2週目

3～4週目



降水量偏差



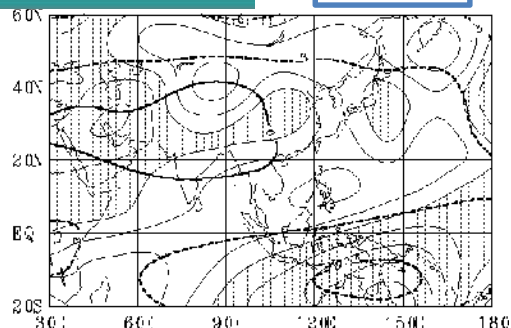
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目はフィリピン付近、2週目以降は日付変更線の西を中心を高気圧性循環偏差。また、1、2週目は中国東北区から沿海州付近でも高気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られ、沿海州付近で高気圧性循環偏差が強まるが、3～4週目は千島近海付近に移動して弱まる。

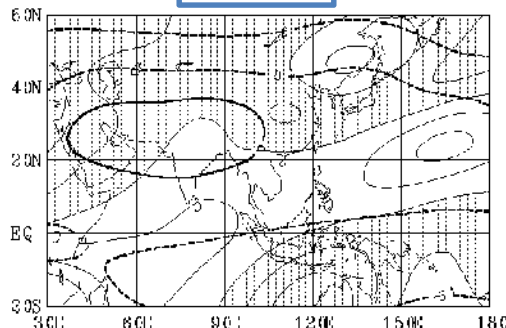
850hPa流線関数は、1、2週目は日本の南を中心に、3～4週目は日付変更線の西を中心到低気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

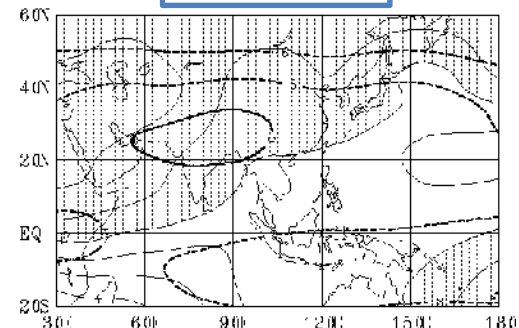
1週目



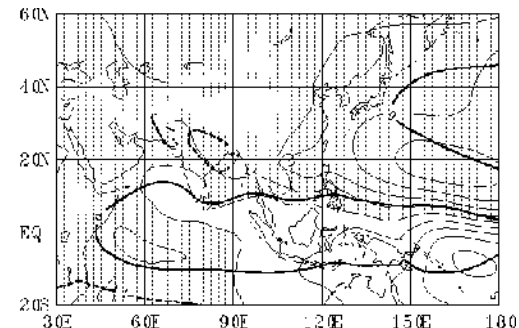
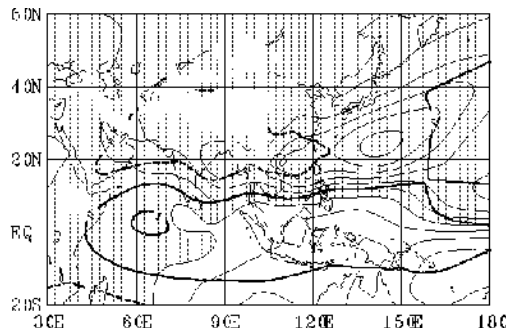
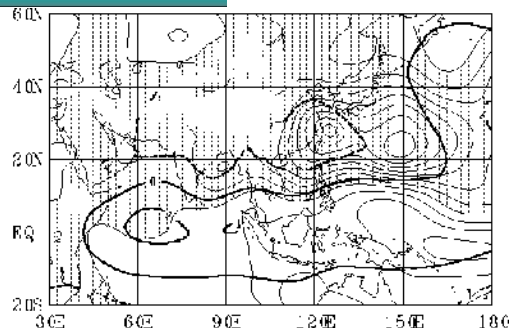
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

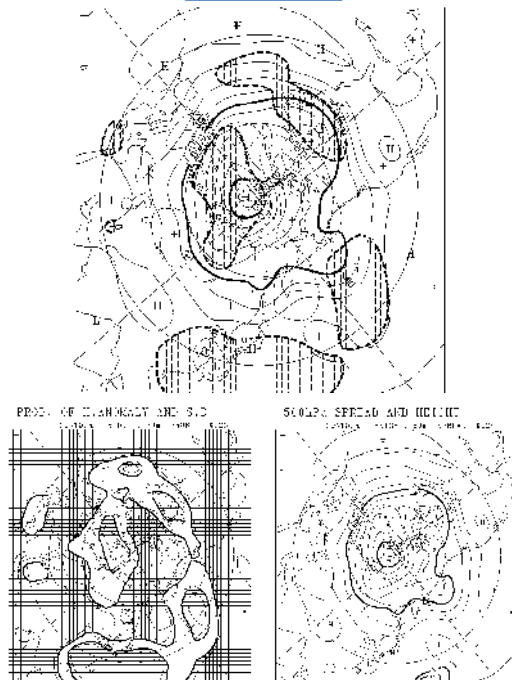


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

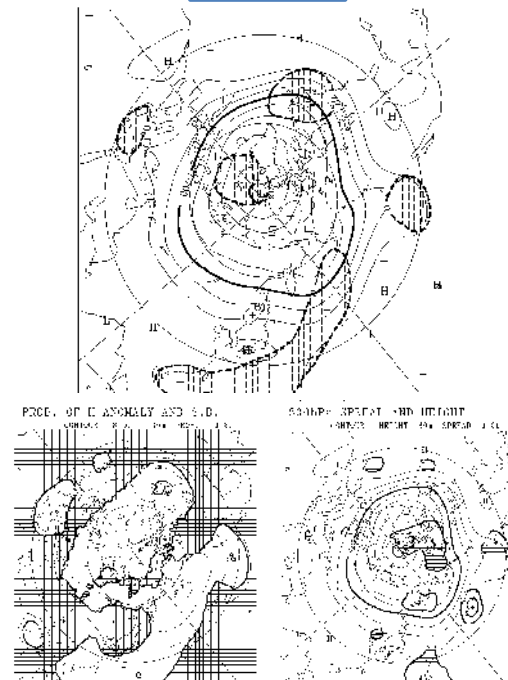
500hPa高度は、1、2週目は日本の南を中心に負偏差域が広がる一方、2週目を中心に日本付近はリッジ場となる。3～4週目は沿海州付近がトラフとなり、やや西谷傾向となるが日本付近は広く正偏差に覆われる。なお、2週目はサハリン付近と日本の南、3～4週目は華北付近でスプレッドが大きい。

500hPa高度

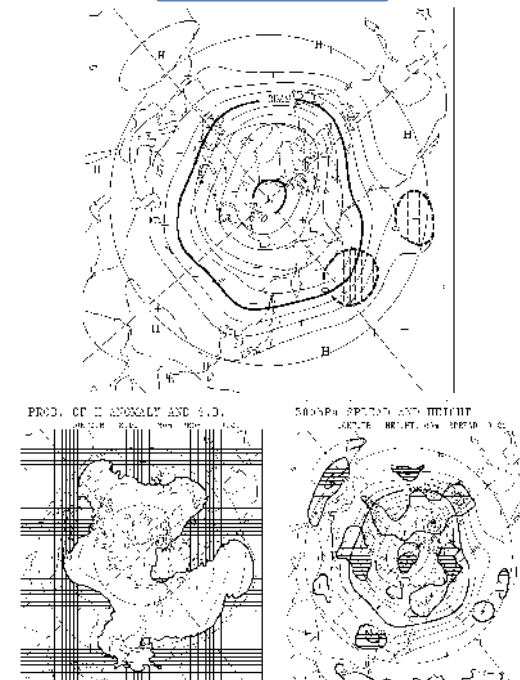
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、期間を通して北日本を中心に正偏差。1週目は東・西日本太平洋側、2週目は東日本太平洋側と沖縄・奄美に負偏差が見られるが、平年との隔たりは小さい。

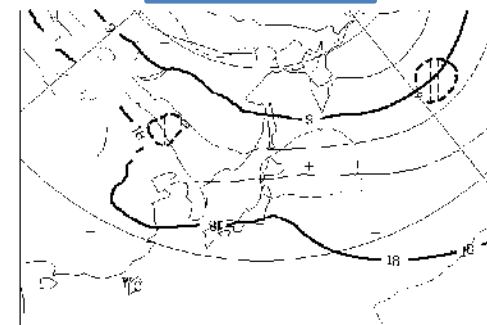
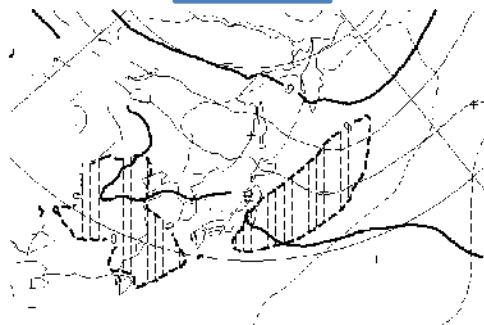
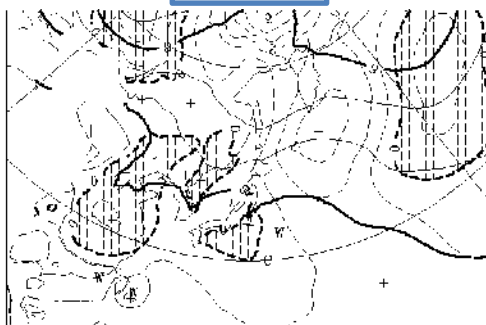
海面気圧は、1、2週目は日本の南を中心に負偏差で、沖縄・奄美を中心に台風第13号を含む熱帯じょう乱の影響を受けやすい。2週目は中国東北区と千島近海に高気圧が見られる。3～4週目は日本付近は負偏差だが、不確実性が大いなので平年と同様の天候を考える。

1週目

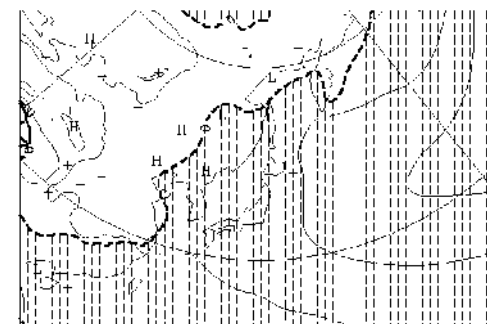
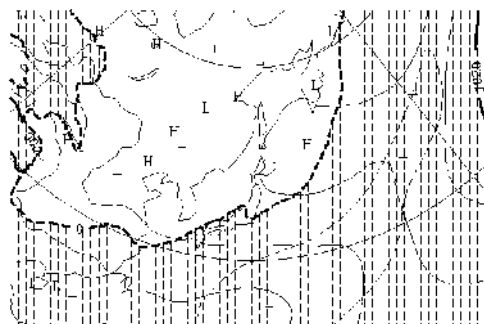
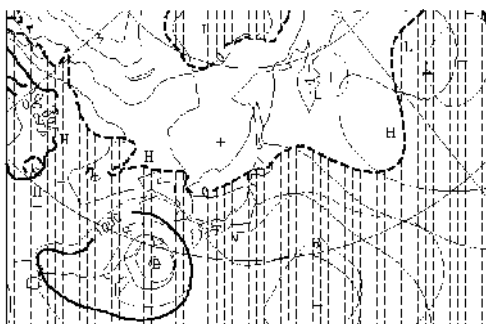
2週目

3～4週目

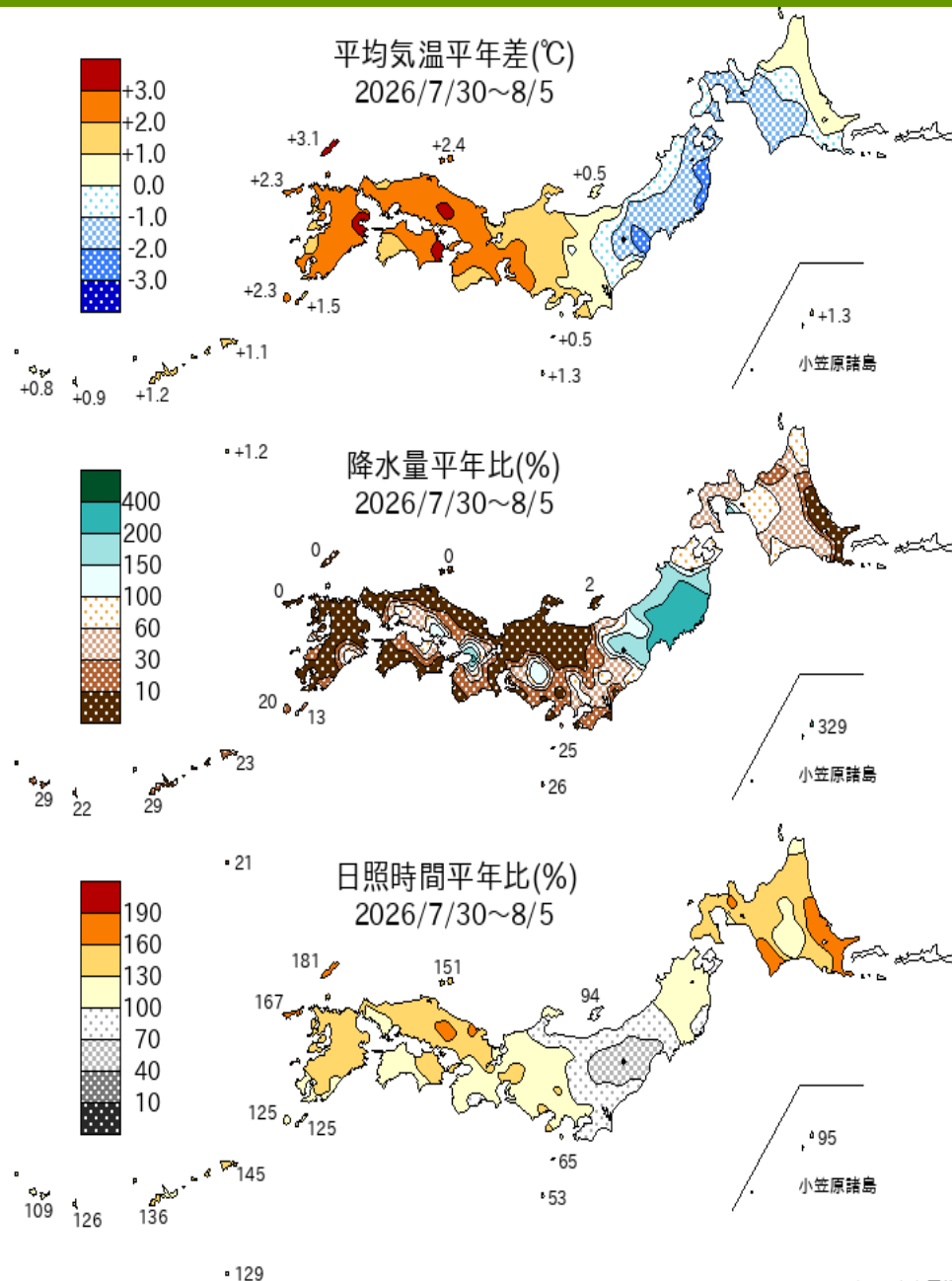
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(7月30日～8月5日)は、8月2日頃までは東北地方を中心に低気圧や梅雨前線の影響を受けた一方、西日本や沖縄・奄美を中心に高気圧に覆われました。その後は千島近海を移動した高気圧が本州付近に張り出し、日本の南を台風第13号が西へ進みました。このため、降水量は東北地方で平年を上回った他は、平年を下回った所が多く、日照時間も東北南部を中心に平年を下回った他は、平年を上回った所が多くなりました。

気温は、北日本は冷涼な空気の影響を受けて平年を下回りましたが、東・西日本と沖縄・奄美は晴れた日が多く、西日本を中心に平年を大きく上回りました。8月2日から3日は、近畿地方、四国地方、九州北部地方で酷暑日となった所がありました。